

# SigmaSystemCenter 3.5 Release Notes

Published: 2016/Nov/24, Document Edition 1.0

## Welcome to SigmaSystemCenter 3.5 Update 1

Release Name  
SigmaSystemCenter 3.5 Update 1  
Release Date  
2016/Nov/25  
Internal Revision  
r29783

SigmaSystemCenter はマシン、ストレージ、ネットワークの統合管理ソフトウェア製品です。主に中規模、大規模ITシステム管理者向けのIT環境の統合管理ツールであり、複雑化したITシステムを抽象化し、構成変更や管理作業を容易に実行します。

SigmaSystemCenter 3.5 Update 1 は企業が仮想化基盤を用いてプライベートクラウドを構築し機敏なビジネス活動をおこなうことを支援します。

SigmaSystemCenter は SystemProvisioning, DeploymentManager, SystemMonitor, ESMPROからなるスイート製品です。

### About This Document

本書は、SigmaSystemCenter 3.5 Update 1 における変更点を中心に記述したリリースノートです。機能や設定の詳細については関連文書、マニュアルを参照してください。ここに記載している情報は、通知することなく変更される可能性があります。

- What's New
- 3.5 Update 1 Release Notes

### What's New

SigmaSystemCenter 3.5 Update 1 はこれまでに検出された問題を修正し、プライベートクラウド環境を管理する場合に必要な機能を中心に、機能の強化および改善をおこなっています。主な変更点は以下の通りです。

- プラットフォーム拡大
  - 管理サーバ、管理対象マシンのOSとして、Windows Server 2016に対応しました。( #18037, #18962)
- VM管理
  - 新しい仮想化基盤として下記をサポートします。
    - vSphere 6.5 (#18727)
    - Windows Server 2016 Hyper-V (#18916)
  - VMware
    - vCenter Server上のメンテナンスモードに連動するようになりました。( #16713)
    - vSphere Web Clientのイベントタブに表示されるすべてのイベントを検知するようにしました。( #17814)
- Webコンソール
  - vSphere6 以降の環境で仮想マシンコンソールをVMware HTML Consoleで表示できるようにしました。( #18031)
  - 「リソース」ビューでストレージプール詳細画面を追加し、ストレージ関連画面を改善しました。( #18787)
  - トポロジ表示 - トポロジのポップアップ表示の強化により、右クリックしたノードの構成情報や性能情報、障害情報を即座に把握できるようになりました。( #18829)
- レポートिंग
  - レポート機能 - レポート定義ファイルおよびレポートテンプレートファイルをカスタマイズすることにより、各種情報をレポートファイルに出力することができるようになりました。( #18728, #18729, #18733, #18910)
- ストレージ
  - NEC iStorage装置のイベント監視を強化しました。( #18826)

---

## Legal Notices

Copyright (C) NEC Corporation 2003-2016.

NEC SigmaSystemCenter, SigmaSystemCenter, MasterScope, EXPRESSCLUSTER, SIGMABLADE and ProgrammableFlow are either registered trademarks or trademarks of NEC Corporation in the United States and/or other countries.

Microsoft, Active Directory, Windows, Windows Server, Hyper-V, Microsoft Internet Explorer, and SQL Server are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

Linux is a registered trademark or trademark of Linus Torvalds in the United States and/or other countries.

Red Hat and Red Hat Enterprise Linux are registered trademarks or trademark of Red Hat, Inc. in the United States and/or other countries.

Intel, Pentium, Itanium, and Xeon are trademarks of Intel Corporation in the U.S. and other countries.

AMD is a trademark of Advanced Micro Devices, Inc.

EMC, VNX, Symmetrix, and CLARiON are registered trademarks of EMC Corporation in the United States and other countries.

VMware, ESX Server, ESXi, vSphere, vCenter Server and vMotion are registered trademarks or trademarks of VMware, Inc. in the United States and other countries.

Citrix, Citrix XenServer, and Citrix XenCenter are registered trademarks or trademarks of Citrix Systems, Inc.

Foundry Networks, FastIron, ServerIron and the 'Iron' family of marks are trademarks or registered trademarks of Foundry Networks, Inc. in the United States and other countries.

BIG-IP is a registered trademark of F5 Networks, Inc. in the United States and/or other countries.

Oracle and Java are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates.

Mozilla Firefox is a trademark of the Mozilla Foundation.

All other brands and products used in this document are the trademarks or registered trademarks of their respective trademark holders. The (R) and TM marks are not explicitly in this document.

## Term & Definitions

(#xxxxx)  
内部トラッキング番号

## Related Information

- 製品情報:  
<http://jpn.nec.com/websam/sigmasystemcenter/>
  - SigmaSystemCenter 3.5 ファーストステップガイド
  - SigmaSystemCenter 3.5 インストレーションガイド
  - SigmaSystemCenter 3.5 コンフィグレーションガイド
  - SigmaSystemCenter 3.5 リファレンスガイド
  - SigmaSystemCenter 3.5 仮想マシンサーバ(ESX/ESXi)プロビジョニングソリューションガイド
  - SigmaSystemCenter 3.5 クラスタ構築手順
  - SigmaSystemCenter 3.5 sscコマンドリファレンス
  - SigmaSystemCenter 3.5 Web API リファレンス

## 3.5 Update 1 Release Notes

このドキュメントでは SigmaSystemCenter 3.5 Update 1 の変更点について記述します。  
SigmaSystemCenter 3.5 Update 1 は 3.5 に対する品質強化や機能強化をしたリリースです。

## 製品構成

### SystemProvisioning

全体のオーケストレーション機能として、プロビジョニング機能やポリシー機能をつかさどります。SystemProvisioning のバージョンは 6.5 です。

SystemProvisioning のWebコンソールには <http://<管理サーバ>/Provisioning/> で接続できます。

### DeploymentManager

Windows, Linuxのデプロイメント機能をつかさどります。DeploymentManager のバージョンは 6.5 から、6.51になりました。

DeploymentManager のWebコンソールには <http://<管理サーバ>/DPM/> で接続できます。

### SystemMonitor 性能監視

マシン性能値の監視機能を提供します。SystemMonitor 性能監視のバージョンは 5.7 から、5.8になりました。

### ESMPRO

マシン監視管理部分をつかさどります。マネージャとしてのESMPRO/ServerManagerとエージェントとしての ServerAgent で構成されます。ServerAgent はマシン依存部を持つため、SigmaSystemCenter の媒体には含まれていません。NEC Express5800シリーズにバンドルされています。

ESMPRO/ServerManager のバージョン は 6.10 から、6.14 になりました。

## 製品体系とライセンススキーム

本章は SigmaSystemCenter の製品体系とライセンス体系について記載します。

### Edition

管理台数や機能により、以下のエディションを用意しています。

- Basic Edition
- Standard Edition
- Enterprise Edition

日本市場向けは日本語版、海外市場向けは英語版で構成します。

海外市場向けには、Enterprise Editionは存在せず、代わりにEnterprise Licenseを提供しています。

また、VirtualPCCenterの基盤としてVPCC Editionライセンスを定義しています。VPCC Edition の製品構成はStandard Editionと同じです。

SigmaSystemCenter 3.2 からメディアキットの提供を開始しました。メディアキットはインストール媒体のみでライセンスは含まれていません。(＃13386)

## Basic Edition

Basic Editionは追加可能なターゲットライセンス数を8台に限定したエディションです。VMホストソケットライセンスを適用する場合、8台までのマシンを管理できます。

製品構成はStandard Editionと同じで、全ての機能を使用することができます。

Standard Editionへのアップグレードが可能です。

## Standard Edition

Windows / Linuxサーバ、Windows 7 / 8 / 8.1 / 10 クライアントのOSを対象とし、サーバOSは100台まで、クライアントOSは4000台までのターゲットライセンスを追加可能な中規模システム向けのEditionです。サーバ、ストレージ、ネットワーク、VMの構成制御機能を搭載。さらにサーバ統合、クライアント統合の両立が可能となります。

Standard EditionでVMの構成制御をおこなう場合は、仮想サーバ管理オプションが必要です。

## Enterprise Edition

追加可能なターゲットライセンス数に制限のない大規模システム向けのエディションです。Standard Editionの機能に加え、以下の違いがあります。

- 仮想サーバ管理オプションが含まれます。
- 10台分の Network Appliance Control オプションが含まれます。
- Cisco UCSの制御管理が可能です。(＃9764)
- プログラマブルフロー コントローラの制御管理が可能です。(＃10802)

なお、海外版ではEnterprise Licenseとして提供されます。

## Management Server License

各Edition製品には、一つの Management Server License が定義されます。これをBaseライセンスや本体ライセンスと呼称します。

管理サーバには一つの本体ライセンスが必要です。

管理サーバを追加するために、同じ目的のシステムで使用できる、管理サーバ追加ライセンスが定義されています。

新規インストール後60日間は、全機能を利用可能な試用版として使用することができます。(＃15613)

## Enterprise License

海外版では、Enterprise Licenseが Enterprise Editionの代替として定義されています。Enterprise Licenseは管理サーバライセンスの一種です。これを入れることにより、Enterprise Edition相当の追加可能なターゲットライセンス数、オプションが有効になります。

## Option License

管理サーバ毎に必要なオプションライセンスを定義しています。オプションライセンスは SigmaSystemCenter の機能を有効にするために必要なライセンスです。

仮想サーバ管理オプション

- 仮想化環境の管理機能を有効にします。Enterprise Editionに同梱されています。

管理サーバクラスタライセンス

- 管理サーバをクラスタ構成で運用する場合に必要なライセンスです。本ライセンス1つで、1台の待機系サーバに適用可能です。

## 管理対象ライセンス

管理対象マシンごとにライセンスが必要です。

### ターゲットライセンス

SigmaSystemCenter 3.0以降、OSの種類ごとに分かれていたターゲットライセンスを統合しました。SigmaSystemCenter 3.0以前は、OSの種類ごとにターゲットライセンスが必要でしたが、共通のターゲットライセンスが使用できます。これにより、WindowsからLinuxへマシンを用途変更する場合に2つのライセンスを用意する必要がありません。(＃4498)

### ホストソケットライセンス

- ホストソケットライセンスはCPUのコア数に依存し、以下の4種類のライセンスがあります。SigmaSystemCenter 3.4から、"(17-32Core) ライセンス" を追加しました。(#16039)
  - VMホストソケット (1-8Core) ライセンス
  - VMホストソケット (9-16Core) ライセンス
  - VMホストソケット (17-32Core) ライセンス
  - VMホストソケット (無制限) ライセンス
- VMを管理する場合に、VMホストソケットライセンスとターゲットライセンスを混在させた運用ができます。設定方法や使用条件について、お問い合わせください。VMホストソケットライセンスを使用する場合に全てのVMサーバにソケットライセンスを適用する必要がありました。VMと物理マシンが統合管理される場合のライセンス混在は従来どおりサポートされています。(#12183)

## その他のライセンス

- Differential CloneでVMを作成する場合、ホストソケットライセンスやターゲットライセンスを適用していても、VMの数分だけ Differential Clone オプション が必要です。
- ソフトウェアロードバランサ(LVS, NEC InterSecVM/LB)とファイアウォールアプライアンスの制御には Network Appliance Control オプション が必要です。Enterprise Edition には 10台分の使用許諾が含まれています。なお、Network Appliance Control オプション は Software Load Balancer オプション から名称が変更されたオプションです。(#14183)

---

## Install

### 必要システム構成

インストールの前に、お使いのコンピュータが必要システム構成を満たしているか確認してください。詳しくはファーストステップガイド 3章 動作環境 を参照してください。

#### 管理サーバ

##### 最小ハードウェア構成

##### CPU

Intel Compatible 2GHz 2 Core以上

##### メモリ容量

2GB以上

##### ディスク容量

7GB以上

##### OS

- Windows Server 2016 Standard
- Windows Server 2016 Datacenter
- Windows Server 2012 R2 Standard
- Windows Server 2012 R2 Datacenter
- Windows Server 2012 Standard
- Windows Server 2012 Datacenter
- Windows Server 2008 R2 Standard SP1
- Windows Server 2008 R2 Enterprise SP1
- Windows Server 2008 R2 Datacenter SP1

##### 必須ソフトウェア

- .NET Framework 4.5.2 以降のバージョン
- IIS 7.5もしくはそれ以降のバージョン
- ASP.NET 4.0、4.5、または 4.6

## アップグレード

SigmaSystemCenter 1.x からの直接のアップグレードはサポートしません。SigmaSystemCenter 1.x からは SigmaSystemCenter 3.1 Update 1 を経由したアップグレードをサポートします。

SigmaSystemCenter 2.x からアップグレードする場合、ESMPRO/SM を ESMPRO/SM Ver.4からVer.5に更新しておく必要があります。(＃17118)

## Runtime Environment

### .NET Framework

.NET Frameworkが SigmaSystemCenter の動作環境として使われています。SigmaSystemCenter 3.5 Update 1 は .NET 4.5.2 以降を使用しています。(＃16650, #16643, #17401, #18541)

### Java JRE

Java JRE はJavaの実行環境です。JREは DeploymentManager で使用されています。

SigmaSystemCenter 3.2 から JRE の同梱を廃止しました。Linux用のOSクリアインストール用パラメータファイルの作成、ディスク複製用パラメータファイルの作成、PackageDescriber を使用したパッケージの作成をおこなう場合は、Oracle社のサイトから最新の x86版の JRE をダウンロードしてインストールしてください。(＃13958)

### IIS

SigmaSystemCenter 3.5 Update 1 は IIS 7.5, 8, 8.5, 10 をサポートしています。

### Database

データベースは SigmaSystemCenter が管理するIT環境の構成情報や設定を保存するために使われます。  
Microsoft SQL Server 2014 SP2 Express が製品にバンドルされています。(＃19003)  
データベースとして、Microsoft SQL Server 2016に対応しました。(＃18869,＃19181)  
デフォルトのDBインスタンス名は SSCCMDB と DPMDBI です。  
サポートするDBMSは以下のとおりです。

- Microsoft SQL Server 2016
- Microsoft SQL Server 2016 Express
- Microsoft SQL Server 2014 SP2
- Microsoft SQL Server 2014 SP2 Express
- Microsoft SQL Server 2014 SP1
- Microsoft SQL Server 2014 SP1 Express
- Microsoft SQL Server 2014
- Microsoft SQL Server 2014 Express
- Microsoft SQL Server 2012 SP1
- Microsoft SQL Server 2012 SP1 Express
- Microsoft SQL Server 2012
- Microsoft SQL Server 2012 Express
- Microsoft SQL Server 2008 R2 Express Edition
- Microsoft SQL Server 2008 R2

## Browser

SigmaSystemCenter 3.5 Update 1 では下記のブラウザで動作確認をおこなっています。

- Microsoft Internet Explorer 11 (＃19004,＃14303)
- Microsoft Internet Explorer 10 (＃13781)
- Mozilla Firefox 45 ESR, 48
- Microsoft Edge (＃17525)

## Resource Specific Information

本章は SigmaSystemCenter 3.5 Update 1 リリースでサポートされるハードウェアや基盤についての情報を記載します。

### 管理対象 OS

管理対象マシンのOSとして以下を追加しました。

- Windows Server 2016 (#18037、#18962)

### 仮想化基盤

仮想化基盤として以下を追加しました。

- vSphere 6.5 (#18727)
- Windows Server 2016 Hyper-V (#18916)

### ネットワーク

- InsetSecVM/LB V4.0をサポートしました。(#19072)

## 一般的なシステム管理

- 登録済みのカスタムオブジェクトの名前、製品名、ノードをsscコマンドで更新できるようになりました。(#18648)
- イベント履歴の最大出力件数と最大出力日数を指定できるようになりました。(#18940)
- 運用ログの最大出力件数の最大を1,000,000件に、最大出力日数の最大を1,000日に変更しました。(#18940)
- Windows OS設定の使用者と組織名について、省略することができるようになりました。また、2バイト文字を使用できるようになりました。(#18184、#19021)
- スマートグループを利用したデータ参照の際に稀に処理が失敗する問題を修正しました。(#19101)
- モデル/ホストにIPアドレスプールを設定してIPアドレスの自動払い出しを行った場合でも、固定IPアドレスを除外対象に含むよう対応しました。(#19085)

### 性能監視

SigmaSystemCenter は、SystemMonitor性能監視を使用してシステムの性能状況の監視をおこないます。SystemMonitor性能監視は、システムの性能データを定期的に収集してリアルタイムでグラフ表示することができます。

- sscコマンドによるSigmaSystemCenterの監視プロファイルをエクスポートとインポートが行えるようになりました。(#18535)
- レポート用監視プロファイルの生成時に、レポート定義ファイルの指定を省略できるようになりました。(#19104)
- 監視プロファイルの指定変更が行われたとき、Webグラフの表示が意図しない表示にならないように表示設定をリセットするようにしました。(#18926)
- SSH.NETライブラリの不具合の修正をしました。(#18837)

### SystemMonitor 5.8

- 管理サーバとして、Windows Server 2016を対応しました。(#17845)
- 監視対象マシンとして、以下のOSを新しくサポートしました。
  - Windows Server 2016 (#17845)
  - vSphere ESXi 6.5 (#18725)
- KVMサーバのOS言語に依存せず、Disk Space (MB) を収集できるように強化しました。(#18600)
- Windows管理対象マシンの性能データ収集で、管理対象マシンへの接続時の認証処理の方法を改善しました。(#18848)
- ssc-perf show performancedataコマンドに対して、指定種類の対象の性能データのみを出力する機能を提供しました。(#14173)
- ssc-perfコマンドのヘルプメッセージを改善しました。(#18514)
- SystemMonitor性能監視のイベントメッセージや画面の表記を改善しました。(#18472)
- SystemMonitor性能監視のデータベースに対する保存期間が過ぎた性能データの削除処理について、トランザクションログ肥大化が発生しないように削除方法を改善しました。(#18969)
- 大規模サブリースプールのSystemProvisioning構成反映の性能を改善しました。(#18491)
- バックアップログファイル (イベントログファイル、およびデバッグログファイル) を gzip圧縮で保存するように変更しました。(#18614)
- ESXiに対する性能データ収集で、詳細が「ESXサーバから性能データが取得できません」のメッセージが含まれるエラーを発



生する場合がある問題を修正しました。(＃18665)

- Webコンソールのグラフで複数の閾値領域の表示ができない問題を修正しました。(＃18788)
- デバッグログファイルに出力する時刻を、UTCからローカル時刻に変更しました。(＃18400)
- デバッグログファイルのサイズ、世代数の既定値を変更しました。(＃18597)
- SystemProvisioning経由での性能データ取得の際に記録する情報を改善しました。(＃19096)

## VM管理

- 仮想マシンをVMクローンしたときにクローン元の構成パラメータを引き継ぐようになりました。(＃18318)

## VMware

- vSphere DRS環境下で発生するvCenter Serverのイベントを検知し、仮想マシンの電源状態、および配置情報を自動的にSigmaSystemCenterのデータベースに反映するようになりました。また、vSphere DPMによりESXiのスタンバイモードへの移行 / 解除が行われたときにESXiの電源状態を自動的にSigmaSystemCenterのデータベースに反映するようになりました。(＃14616)
- vSphereのアドミッションコントロールのフェイルオーバーホストに指定されたESXiは、SigmaSystemCenterの仮想マシンの配置管理による配置先仮想マシンサーバ選択処理の対象外になりました。(＃15480)
- vCenter Server上でメンテナンスモードに設定したESXiをSigmaSystemCenter上でメンテナンスモードを設定したときと同じように扱えるようになりました。それにより、SigmaSystemCenterのポリシーによる復旧アクションが抑制され、仮想マシンの配置管理による配置先仮想マシンサーバ選択処理の対象外になりました。(＃16713)
- vSphere Web Clientのイベントタブに表示されるすべてのイベントを検知し、SigmaSystemCenterのイベント履歴、および管理サーバのイベントログに記録できるようになりました。(＃17814)
- 管理サーバのOSの言語設定に従って vCenter Server からメッセージを受け取るようになりました。(＃18207)
- SigmaSystemCenter以外の操作によって仮想マシンの構成が変更された場合に、自動的に仮想マシンの情報を収集し、データベースを更新するようになりました。(＃18274)
- Linuxの仮想マシン作成時に、ホストプロファイルのドメインサフィックスがDNS検索パスに反映されるようになりました。(＃18389)
- Linux の VM 作成でホストプロファイルに設定されたパスワードでログインが可能な場合はホストプロファイルの拡張設定コマンドの設定が仮想マシンに反映されるようになりました。(＃18394)
- ESXiのインストール済みソフトウェアの表示にvib (VMware Infrastructure Bundle) パッケージが表示されるようになりました。(＃18530)
- 仮想マシンの構成ファイルがロックされてFailoverが失敗する場合に一定時間経過してもロックが外れないときは、別のESXiへのFailoverを試みるようになりました。(＃18637)
- SigmaSystemCenter以外の操作で仮想マシンの移行、ESXiのメンテナンスモードへの移行、スタンバイモードへの移行 / 解除が実行された場合に該当の処理が行われている間は、SigmaSystemCenterでは対象のマシンを処理中と表示するようになりました。(＃18652)
- vSphere 6以降の環境で統合プラグインをインストールすることなく仮想マシンのコンソールを使用できるようになりました。(＃18721)
- vSphere 6.5をサポートに追加しました。vSphere 6.5環境のESXi、および仮想マシンを既存環境と同様に管理、操作することができるようになりました。(＃18727)
- 一時的な障害でポリシーアクションの実行中に障害が回復したときでもESXiを切断状態に更新する場合がある問題を修正しました。(＃18519)
- TLS 1.1, TLS 1.2 を使用して連携製品に接続できるようになりました。(＃19116)

## Microsoft Hyper-V

- Windows Server 2016 Hyper-Vに対応しました。(＃18916)
- Hyper-Vの仮想マシンに対して、オフラインの状態でもIn-Bandのアカウントが登録できるようになりました。(＃18913)
- サービス収集機能の警告が抑制できるようになりました。(＃18888)
- 複数のVMサーバを同時に再起動した場合、タイムアウトが発生する問題を修正しました。(＃19100)
- Windows Server 2008 R2のHyper-Vホストに対して、仮想ネットワーク制御により、仮想スイッチを作成しようとすると、処理が失敗する問題を修正しました。(＃19345)
- 構成パラメータで起動・停止アクションが設定できない場合がある問題を修正しました。(＃19179)

## リソースプール管理

- Hyper-VホストのリソースプールでRDM用LUNの消費の値が正しく算出されない場合がある問題を修正しました。(＃19340)

## ネットワーク

SigmaSystemCenter は、マシンの構成変更にあわせて、マシンに接続されているネットワークデバイス(スイッチやロードバランサ)の構成を変更します。

- VLANやポートグループを作成時、VLAN IDに "1" を指定することができるようになりました。(＃18942)
- ProgrammableFlowコントローラ上の仮想ネットワークノード (VTN、vBridge、vRouter) を削除することができるようになりました。(＃17382)

## ストレージ

SigmaSystemCenter は、マシンの構成変更に合わせて、マシンに接続されているストレージの構成を変更します。また必要な時に、LDを作成することができます。

- ストレージプールの詳細情報画面が表示できるようになりました。(＃18884)
- NEC iStorage装置のイベント監視を強化しました。(＃18826)
- DiskVolumeの更新が遅い問題を修正しました。(＃18882)
- iStorageのフローティングIPアドレス、コントローラIPアドレスを自動で収集するようになりました。(＃18635)

## Deployment と Provisioning

### Deployment

- SigmaSystemCenterからDeploymentManagerのバックアップを実行する際、保存されるBackupイメージの説明を指定できるようになりました。(＃18961)
- リストアを実行する際には、Backupイメージを指定することが可能になりました。(＃18961)
- vCenter Serverで作成された仮想マシンのテンプレートから仮想マシンを作成時にDPMサーバへ仮想マシンが自動登録されない場合がある問題を修正しました。(＃18860)

### DeploymentManager 6.51

- 管理サーバ、イメージビルダ、DPMコマンドライン、パッケージWebサーバ、PackageDescriber、管理対象マシンのOSとして、Windows Server 2016に対応しました。(＃18991)
- 管理対象マシン (仮想環境) のOSとしてvSphere 6.5に対応しました。(＃18739)
- UUID / MACアドレス編集時に英大文字のまま登録される問題を修正しました。(＃18724)
- Windows Server 2012 R2 Hyper-V以降のホスト環境でのディスク複製OSインストール機能に対応しました。(＃18794)

## Policy と Action

- [運用] ビューのモデルグループを対象としたイベント発生時に、グループに設定したメールアドレスにメールが送信されない問題を修正しました。(＃18800)

## UI と API

### Webコンソール

- 大量にグループやマシンを管理した環境において、[運用]、[リソース]、[仮想] の各ビューの表示性能を改善しました。(＃18802)
- トポロジのポップアップ表示の強化により、右クリックしたノードの構成情報や性能情報、障害情報を即座に把握できるようになりました。(＃18829)
- ストレージプール起点でのトポロジを表示できるようになりました。(＃18890)
- ストレージトポロジ、トポロジの表示性能が改善されました。(＃18579)
- いくつかのリソースの詳細画面のイベント履歴からイベント詳細画面へ遷移できるようにして、詳細を確認したあと、元のリソースの詳細画面へ戻れるようにしました。(＃18640)
- イベント履歴画面から「リソース」ビューの障害機器詳細画面へ遷移できるように改善しました。(＃18649)
- 「リソース」ビューのマシン詳細画面に「イベント履歴」テーブルを追加しました。(＃18762)
- 「リソース」ビューでストレージプール詳細画面を追加し、ストレージ関連画面を改善しました。(＃18787)
- 「リソース」ビューのいくつかの詳細画面の「イベント履歴」テーブルにページング機能を追加しました。(＃18904)
- IE11標準モードに対応しました。(＃19004)

### ssc command

- sscコマンドに以下の機能の追加を行いました。
  - すべてのコマンドで統一したパスの指定方法ができるようになりました。(＃18420)
  - ProgrammableFlowコントローラ上の仮想ネットワークノード (VTN、vBridge、vRouter) を削除するコマンドを追加しま

した。(＃17382)

- 監視プロファイルをエクスポート / インポートするコマンドを追加しました。(＃18535)
- ディスクボリュームが配下でないストレージプールも表示するようになりました。(＃19137)
- ssc set-machine-statusコマンドでメンテナンスステータスを設定する場合にブートコンフィグ (vIO) 運用のマシンの物理マシンと論理マシンのステータスが一致しない問題を修正しました。(＃19183)
- ssc set-machine-statusコマンドで複数のマシンを指定してステータスを更新できない場合がある問題を修正しました。(＃19208)
- ssc update vmpropertyコマンドでCPU、またはメモリのshare / limit / reservation の値の指定が反映されない場合がある問題を修正しました。(＃19245)
- ssc show machineコマンドの表示が遅い問題を修正しました。(＃19196)
- ssc monitoringprofile create -report コマンドで生成した監視プロファイルの性能情報がSystemMonitor性能監視に反映されない問題を修正しました。(＃18650)
- ssc update environment コマンドで定期収集の設定を修正しました。(＃18674)
- 一部ヘルプメッセージの修正を行いました。(＃18674)

## レポートिंग

- レポート定義ファイルおよびレポートテンプレートファイルをカスタマイズすることにより、以下の情報をレポートファイルに出力できるようになりました。
  - iStorageディスクアレイ装置上の論理ディスクの性能情報を出力できるようになりました。(＃18728)
  - SystemMonitor性能監視が監視するカスタム性能情報を出力できるようになりました。(＃18729)
  - グラフシート (chartsheet) を含んだレポートファイルを出力できるようになりました。(＃18733)
  - その他、出力可能な情報を追加しました。(＃18910)
- 仮想マシングループにモデルが存在し、テンプレートおよびマシンプロファイルの設定が存在しない場合に、レポートファイルの作成に失敗する問題を修正しました。(＃19032)
- Excel2013を使用してレポートテンプレートファイルにグラフの雛形を追加した場合に、生成したレポート文書内でグラフの系列の色がすべて同じになる問題を修正しました。(＃18636)

## pvmutil

- 本リリースで変更はありません。

## Installer

- アップグレードインストール時、なんらかの理由でDBコンバートが最後まで実施されなかった場合、エラーメッセージを表示するように追加を行いました。(＃18598)

## Database

- DBスキーマバージョン - SigmaSystemCenter 3.5 Update 1 におけるDBスキーマバージョンは 33 です。(＃18692)

---

## Copyright

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product contains Microsoft SQL Server Express, which is distributed by Microsoft Corporation without charge, Use these products after accepting their license agreements. For details of copyright and ownership rights, refer to the following license files: <folder where Microsoft SQL Server Express is installed>\License Terms

Some icons used in this program are based on Silk Icons released by Mark James under Creative Commons Attribution 2.5 License. Visit <http://www.famfamfam.com/lab/icons/silk/> for more details.

This product includes software developed by Routrek Networks, Inc.

---

Copyright (c) NEC Corporation 2003-2016. Version: 3.5-29783, SystemProvisioning 6.5.0018